



十日町市立田沢小学校 学校だより

ときめき 田沢っ子

《教育目標 やさしく かしく たくましく》

<https://www.schoolweb.ne.jp/tokamachi/tazawa-e>

TEL 025(763)2018 FAX (763)4419

令和7年3月3日 第23号



さすがは大リーガー！

校長 高橋 雅彦

アジア出身の選手として初めてイチロー選手が米野球殿堂入りし、大谷選手をはじめ大勢の日本人選手の活躍が期待される米大リーグ。今年も目が離せません。

さて、昨年末、今シーズンからエンゼルスでプレーする菊池雄星（きくち ゆうせい）選手のインタビュー記事が新聞に載っていました。大谷選手の高校の先輩にあたる彼は、地元の岩手県花巻市に昨年11月に最新のトレーニング機能を備えた練習施設を完成させました。地域の高校球児や少年野球チームにも開放するそうです。一時的な寄付ではなく、常に子どもたちや地域とつながれる場所が必要だと感じたからだそうです。

アメリカでプレーすることで日本とアメリカの指導方法の違いも感じているそうです。以下は新聞からの抜粋です。

「アメリカで若手と練習すると、投げ方や打ち方に癖があると感じます。それが個性になっており、必要な基礎はプロになってから練習することもあります。日本では、まず形から教えて、せっかくはみ出している部分を矯正してしまいます。」

「少しずつうまくなるのではなく、コツをつかむと一気にうまくなります。練習するのは、うまくなるきっかけをつかむため、そのチャンスは、100回練習するよりも1000回練習した方が多くなる。努力は、ひらくためにするんです」

「この施設に週1回くるだけで、野球がうまくなることはないと思います。残りの6日の時間の使い方を、どう教えていくか。何を食べて、どうトレーニングし、休息するか。ルーティンや記録付けといった『習慣形成』が大切になります」

中学生のとき、母親が給食費を払えずに謝っている姿を見て、人生が変わったそうです。プロになって家を建てるという目標を立て、1日6時間練習するようになりました。うまくなるための魔法はなく、努力を重ねるしかない。しかし、休息や睡眠をおろそかにしていた当時の練習方法は、今では反省すべきことが多いものでした。そして、スポーツ選手にとってプロが全てではないということにも気づいていきます。

「スポーツ選手は全員がプロになれるわけではないし、年齢的な限界もあります。もちろんプロやメジャーリーガーが育てばうれしいですが、決して野球が全てではないと僕自身、思っています。AIが出てきて仕事の形も変わっていくなかで、自分で考えて、自分で問題を解決できる、そういう自立した人間は、どこの世界に行っても結果を出せるのではないのでしょうか。物事への取り組み方や目標設定の仕方を教えることは、野球以上に大事だと思います。」

新聞記事は最後に彼の言葉でこう締めくくっていました。

「いい環境をつくりましょうというのは、いい人に囲まれましょう、ということ。誰と会うか、誰と話すかで、人生は全く変わりますから。それもまた、野球に限った話ではありません。」

大リーグの第一線で活躍する菊池選手の思いを知り、ますます彼の活躍に期待したくなりました。彼の後ろ姿を見て、素晴らしい人材が育つことを願っています。Let's enjoy Major League baseball!

<参考資料> 朝日新聞 2024年12月10日号 オピニオン&フォーラムより



